

授業概要

本講義では、まずは人間の発達について、遺伝と環境について説明する。また、代表的な発達理論及び生涯発達の視点から、主に児童期、青年期の位置づけを理解する。同時に、自分自身の自己理解も深めて欲しい。

児童期から青年期にかけては学校での学び、学習意欲も重要な課題であるので関連する諸理論を紹介する。最後に発達障害について理解し発達障害児・者への支援の仕方を検討する。以上の流れに沿って講義する。

授業計画

第1回	オリエンテーション…授業内容・目的などの案内
第2回	発達とは：発達心理学の歴史等（遺伝か環境か）
第3回	さまざまな発達理論（フロイト、ピアジェ等）
第4回	児童期の発達（道徳観の発達、模倣学習など）
第5回	児童期の発達（友人関係の広がり、学校・ネットいじめなど）
第6回	青年期の発達（1）（エリクソン、ハヴィガーストの発達理論など）
第7回	青年期の発達（2）（マーシャの発達理論、時間的展望など）
第8回	青年期の発達（3）精神的健康
第9回	自己理解
第10回	学びを捉える：学習理論及び学習過程
第11回	やる気のメカニズム：動機づけの理論
第12回	やる気を阻害する要因：学習性無力感
第13回	発達障害
第14回	発達障害の支援
第15回	まとめ
第16回	定期試験（筆記試験）

到達目標

- ・関連する専門用語、理論、キーワードを理解し、説明できる。
- ・生涯発達の視点から、主に児童期、青年期の位置づけを理解する。

履修上の注意

- ・出席状況の基準を満たさない場合は定期試験の受験資格を失う。
- ・遅刻厳禁。講義開始から30分を超える遅刻は、欠席扱いとみなします。
- ・不要な私語の禁止。受講態度の悪い学生には、退出を求めます。
- ・授業の都合上、後半の内容が翌週に回ることがあります。

予習・復習

予習：授業計画をヒントに、参考書、インターネットで関連情報を調べてくことが望ましい。
 復習：講義中に指摘したポイントを中心にノートをまとめること。

評価方法

授業中の平常点（意欲、関心、授業態度 20%）と、試験（筆記 80%）によって評価する。

テキスト

本年度は、教科書は使用せず、資料を配布する。

参考書：J.クロガー（著）アイデンティティの発達 北大路書房
 その他、適宜、紹介する。